

手網沢

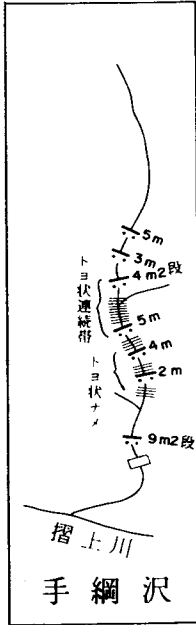
L+

一九八二年八月二九日

一〇時、下降開始。手網沢側は高山沢側と植生が異なり、ヤブこぎなして沢に降り立つ。

沢幅は狭く、ナメも落差があり、連瀑帯もある。高捲きながら下降。

下流部には取水用の塩ビ管がぶらさがっている。連瀑帯を過ぎると河原となり、まもなくF1。二段九段の滝で、滝下が農薬用水の取水堰となっている。



取水堰下は広い河原で、そこを過

松山沢

L

一九八三年七月九日

この一週間雨の降らない日はなく、摺上川本流は相当に増水していた。松山沢に取り付くにはどうしても渡渉しなければならぬ。かなり早い

流れなので、流木を支柱にしながら川の中に入る。深さは最大股下であった。私にとり、

り抜けて摺上川本流に出る。下降終了一時五五分。(記)

「タイム」 下降開始(一〇:〇〇)↓

沢(一〇:二五)↓取水堰(一一:三五)↓摺上川本流(一一:五五)

この程度の渡渉はさほど苦になるものでもなかったが、沢登りは今日が初めてという佐藤さんは相当に面喰らったようである。

すぐに遡行開始。樹林帯を流れる薄暗い沢で、小滝とナメが続く。小滝といっても二段程度のもので登るにほとんど苦労はいらない。

三〇分程歩くと、左岸に水を引く